

〔そのとき、〕十一人の弟子たちはガリラヤに行き、イエスが指示しておかれた山に登った。そして、イエスに会い、ひれ伏した。しかし、疑う者もいた。イエスは、近寄って来て言われた。「わたしは天と地の一切の権能を授かっている。だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にきなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授けあなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」

-マタイ 28 章-

関係性の神

教会は「三位一体の神」を「救いの歴史」から聖霊によって理解してきました。

すなわち、天の父は、御子を遣わして「十字架の道」を示し、その使命を果たして天に戻られた御子に替えて、聖霊を派遣して教会を誕生させ、世の終わりまで、私たちと共にいてくださる「三位一体の神」です。教会はこの一連の「救いの歴史」から、真理の霊である聖霊によってユダヤ教とたもとを分かち、「三位一体の神」の理解に至ったのです。

聖霊降臨によって誕生した教会が、最初に祝う主日が、今日の「三位一体」の祭日であるのは、事の初めにはいつも「三位一体の神」の働きがあることを信者に思い起こさせるためでしょう。祈りの初めに、また食事の前にと、事を始める前に「父と子と聖霊のみ名」によって「十字のしるし」をするのはそのためです。

生前、母は8人の子供のために、一升釜で炊けたご飯の蓋を取って最初にするのは、大きなおたま杓子でご飯の上に「十字のしるし」をすることでした。子供たちはそれを見るのが好きでした。父と子と聖霊の神様の祝福されたご飯を頂けるからです。わたしは、今も炊飯器で炊きあがったご飯の蓋を取って最初に「十字のしるし」をするのを忘れていません。ご聖体をいただく時のように、家庭で神様からの祝福をいただくこのしるしを。



人間の理解を超える「三位一体の神」は「神のいのちの神秘」を私たちに示しておられるのです。神はお一人ですが孤独ではありません。三位の人格が関係性の中で充満した「一つの命」だからです。

この「三位一体の神のいのち」に似せて造られた「私たちのいのち」も、関係性を生きることによって満たされたいのちになるのです。家庭はその出発点です。

家庭の中に、また、人との関わりの中に、いつも三位一体の神の存在を忘れないようにしましょう。